

研究・調査報告書

報告書番号	担当
157	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The intensity of binge alcohol consumption among U.S. adults. 米国人成人における多量機会飲酒の程度	
執筆者	
Naimi TS, Nelson DE, Brewer RD.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Prev Med. 2010 Feb;38(2):201-7.	
キーワード	
アメリカ、成人、多量機会飲酒	
要 旨	
背景: 多量機会飲酒(1 機会あたり 5 単位以上の飲酒)は米国において飲酒に起因する死亡 79000 件/年の半分以上の原因となっている。多量機会飲酒の程度(すなわち、一機会飲酒あたりの飲酒量)とそれに起因する様々な悪影響との間には強い量反応関係があることが報告されている。しかし一般住民を対象とした検討は少ない。	
目的: 本研究の目的は、住民ベースの機会飲酒に関する一定の質問への回答データを用い、米国人成人における一機会飲酒あたりの飲酒量を調査し、多量機会飲酒の独立した関連要因について検討することである。	
方法: 14143 名の成人機会飲酒者が、2003・2004 年に、行動要因危険因子調査システムにおいて、機会飲酒に関する一定の質問に回答した。総飲酒量はビール・ワインおよびリカー含有飲料のうち合計として算出した。	
結果: 機会飲酒者における、直近の機会飲酒時の飲酒量平均は 8 単位(中央値 6 単位)であった: 70.0%が 6 単位以上、38.4%は 8 単位以上であった。直近の機会飲酒時の飲酒量は男性で女性より多く(平均値 8.3 vs 7.0、中央値 7 vs 6)、18-34 歳で 35 歳以上に比べ多かった。機会飲酒 8 単位以上の独立した危険因子は、男性・35 歳未満・白人・低学歴・未婚・30 日以内の機会飲酒 3 回以上・ビール主体の飲酒、であった。	
結論: 成人機会飲酒者のほとんどにおいて、飲酒量は危険行動とされる 5 単位以上であった。多量機会飲酒の程度は、保健機関により定期的にモニターされるべきであり、それにより調査の信頼性は向上し、多量機会飲酒とその影響を減らすための介入の効果をより正確に把握することが可能となるであろう。	